

# 福井県における大気中の水銀濃度の詳細な実態調査について

環境部 大気・化学物質研究G 藤田大介 (R元～2年度)

## 背景

### 水銀（水銀および水銀化合物）

- ・様々な排出源から様々な形態で環境に排出され、分解されずに循環しており、人への毒性が強い物質

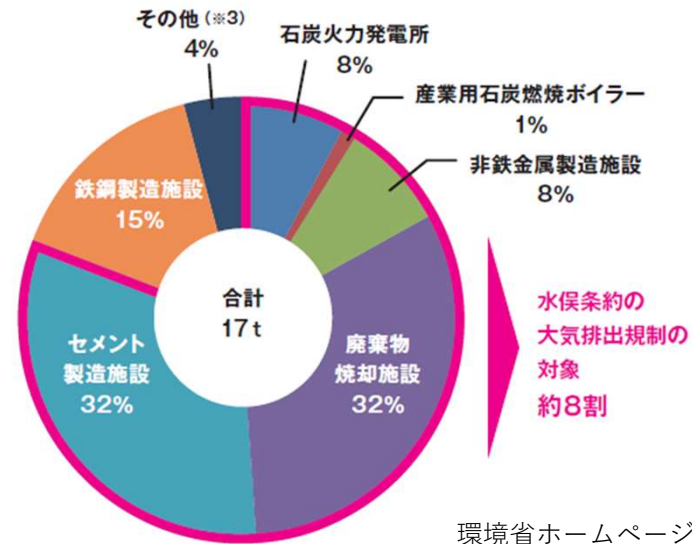
### 水銀に関する水俣条約 H25年10月採択

- ・水銀の人為的な排出から人の健康や環境を保護

### 改正大気汚染防止法 H30年4月施行

- ・大気中への水銀排出規制を追加

## 国内における水銀大気排出量(2014年度)



## 研究目的

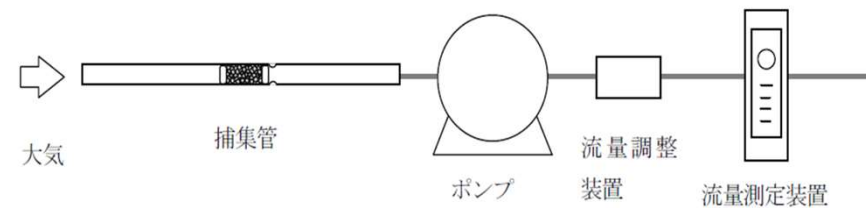
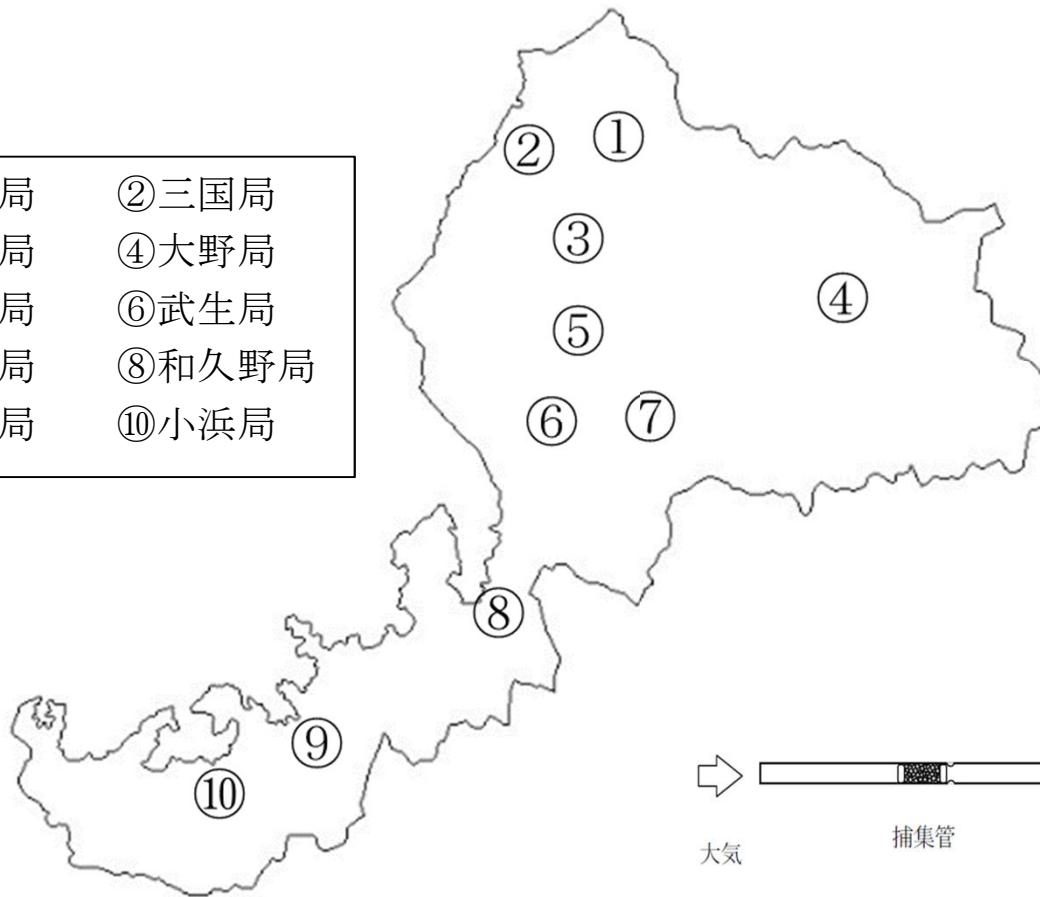
- 通常の有害大気汚染監視業務より水銀の調査地点・調査頻度を増やし、県内各地域の水銀濃度を詳細に把握する
- 大気中水銀の高濃度地点について、さらに詳細調査し、排出抑制対策の有効性評価などに資する基礎資料とする  
(2年間の調査により著しく高濃度の地点がなかったため、計画変更しR2年度で調査終了)

# 福井県における大気中の水銀濃度の詳細な実態調査について

## 方法

県内10地点の大気汚染常時観測局にて、毎月1回、24時間連続サンプリングした試料を分析

- |      |       |
|------|-------|
| ①金津局 | ②三国局  |
| ③福井局 | ④大野局  |
| ⑤神明局 | ⑥武生局  |
| ⑦今立局 | ⑧和久野局 |
| ⑨三方局 | ⑩小浜局  |



# 福井県における大気中の水銀濃度の詳細な実態調査について

## 結果

➤ 県内各地域の大気中の水銀濃度の実態を把握することができた。

- ✓ 県内10地点の年平均値は、R元年度は1.8~2.3ng/m<sup>3</sup>、R2年度は1.6~2.6ng/m<sup>3</sup>の範囲であり、いずれも環境省の指針値40ng/m<sup>3</sup>を十分下回っていた
- ✓ 地点間・季節による明確な濃度変化は見られなかった
- ✓ 県内の濃度はほぼ横ばいに推移（H10~H30年度一般環境 1.2~2.7ng/m<sup>3</sup>）しており、R元・R2年度についても同程度の濃度範囲であった
- ✓ 環境省のバックグラウンド調査結果（H10~H30年度辺戸岬 1.5~2.2ng/m<sup>3</sup>）と比較して本県の大気中の水銀汚染は高くないことがわかった
- ✓ 過去のモニタリング調査結果の全国平均（H10~H30年度一般環境 1.8~2.6ng/m<sup>3</sup>）と比較して本県の濃度は同程度であった